

私の提言

夢ある人生と世の中に

NPO法人夢検定協会代表理事

琵琶 博之



東大阪市生まれ。北海道で町議会議員を経験した後、通信制高校の教員をしながら、同志社大学の大学院でソーシャルインノベーションを専攻。昨年、NPO法人夢検定協会を設立し、3級の一般受験を開始。

夢というと、実現が難しい大きなことというイメージを持つ人もいると思いますが、ささやかなことであっても、自分がやってみたいことに挑戦してみることが大切です。私たちは、夢というものを、「自分がやりたいこと」とまずは定義しました。ですから、夢は小さいことであっていいですし、多い方がよいと考

えます。例えば、自分が飼っている犬とドッグカフェに行ってみるとか、新しくできたコンビニでスイーツを食べる、などでもよいのです。

通信制の高校で、夢の授業を実施してきました。夢という高校生では将来の職業に関わるものという意識が強いのですが、小さなことでもたくさん「やりたいこと」を書き出していくと、「推しのアイドルを見つけて応援する」などとやれそうなことが見つかります。最初は自分がやれることを書いていきますが、段々と家族や友だちのこと、そして地域のことなど、対象が広がっていきます。小さなことでも自分ができそうなことを見つけて、それを自覚し、整理して、実現のための計画を立て、必要なら修正をしていくという経験を重ねることで、少しずつ、自信や人生への見通しが持てるようになります。

これまでの検定は、就職のための知識や縦割り型で、その分野に特化した内容を学んでいるかをチェックするものでした。この「夢検定」は、毎日を楽しんだり、人生を前向きにするために、分野を超えた、「横串」型でノウハウ習得型の

検定です。個人向けでは、初級の3級から2級、1級などを予定しています。特に3級は80分のワークショップに筆記試験をプラスしたもので、例えば1人について30の夢を書き出してもらおうと、途中で思いつかなくなったりしますが、その時に、どのように夢（やりたいこと）を広げていくか、その実現のために何が必要かを参加者で考えていきます。このほか法人向けの認定制度（夢を大切にしている会社）を予定しています。

昨年8月に「小中高生のための大学院・Coda school」というオンラインイベントをPAKTという団体と実施しました。これは、小・中・高校生が自ら研究したいテーマを設定して、それを客観的に分析・研究し、得られた情報をまとめて文章やポスターにまとめ、他の人が納得できるように発表するというものです。オンラインだけでなく、実際に京都市の同志社大学大学院に行つて大学教授の研究を見学したりしました。小さくても数多くの夢を見つかけたり、その実現のためにどうすればよいかを前向きに考えることは、楽しいことだという意識が世の中に広がっていくことを願っています。